

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401126		
法人名	(株)マウントバード		
事業所名	グループホームわかばの家		
所在地	千葉県若葉区東寺山町399-1		
自己評価作成日	平成27年10月10日	評価結果市町村受理日	平成27年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成27年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者の持っている力を最大限引き出せるよう努力しています。特に食事作り、洗濯物干し、たたみ、掃除などは毎日の日課として行っています。</li> <li>・一人一人の排泄パターンを把握してトイレでの排泄を目指しています。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「わかばの家」は「自立支援」を掲げて開所したホームである。利用者にとっての自立支援とは何かを職員間で話し合いながらケアを行っている。利用者向き合い、持っている力を引き出し、生活リハビリを実施し、その人らしく生活が送れるような支援に努めている。自立支援の取り組みについてはスライドを用いて家族にも説明している。また、職員として看護師を配置して健康管理をしており、協力医との連携のもと、看取りも行える体制が整っている。医療と介護の両面から利用者を支えようという姿勢が入居者や家族の安心につながっていることが伺える。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・その人らしく・安らぎのある生活・自立支援を理念として掲げ、毎朝申し送りで復唱し、日々のケアに反映できるよう努めている。また「職場も教養」も読み合わせをしていて三光にしている。	法人理念のほかにホーム独自の「その人らしく・安らぎのある生活・自立支援」の理念を掲げている。ホームの理念に向けた支援内容を職員間で検討し、利用者一人ひとりに即したケア内容を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	みつわ台地区の運動会やお祭りに参加したり、散歩や買い物に出た時は近隣の方に積極的に挨拶や声掛けを行っている。	地域の自治会参加の規定がないため、加入に至ってはいない。しかし地区で開催する運動会や夏まつり、近隣神社の清掃に利用者と共に参加するなど交流の機会を設け、地域とのつながりを深めるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	神社清掃に時々参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員、家族などが参加して隔月開催している。入居者の暮らしぶりやサービスの現状報告、取り組みなど報告し意見を吸い上げサービス向上に努めている。	運営推進会議は民生委員、あんしんケアセンター、家族が参加し、2か月ごとに開催している。事業所の現況やホームの取り組みを報告し、自治会、民生委員からも情報ももらっている。また、家族や地域の自治会長にも参加を呼びかけている。	ホームとしても参加者については課題と考えており、民生委員に年間行事を伝えたり自治会に参加を呼びかけるなどしており、今後も継続して働きかけていく事が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加して頂き情報交換している。必要に応じて社会援護課に相談などしている。	例えば、身体拘束のとらえ方について家族とホームではずれが生じることもあり、市町村の担当課に相談するなど、日頃から連絡をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を順番で受けており、会議などで他のスタッフに報告することで防止に努めている。玄関のみ施錠している。希望があれば職員同伴で外に出ている。	身体拘束については年1回の法人の研修があるほか、ホームでも月1回の勉強会を事業計画に盛り込んで実施している。何が身体拘束にあたるかを職員間で話し合いながらケアにあたっている。外に出たいという利用者には職員が同行するなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われないようスタッフ一人一人に徹底しており、ミーティングでも確認している。また社外研修にも順番で参加している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は理解しているが、現在ご家族で管理されている為、必要になれば支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、必ず施設の生活を見て頂いてから契約内容を説明し、お帰りになられてから再度確認して頂いたうえで契約している。解約に際しても本人や家族の納得がいくまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置しているが今までに意見や要望が寄せられたことはない。しかしご家族の来訪時には積極的に声をかけたり、家族会や運営推進会議の場で要望や意見を聞く機会を設け、運営に反映させている。	年1~2回の家族会や2か月ごとの運営推進会議で家族から意見を聞いている。また来訪時に直接意見を聞く機会も設けている。手すりの位置の変更やドアが開けにくいなどの意見には速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とスタッフとの意見交換は申し送りや会議で行われている。また文章や口頭で聞く機会をも設け運営者と相談の上実施している。	職員がいつでも管理者に意見を言えるような環境づくりを心がけている。意見や提案はまず、現場でやってみて検証する一連の流れができており、結果は管理者が運営者に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の向上心を推奨し研修などにも積極的に参加するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人の力量を把握し、外部、内部の研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社が運営している他の施設の職員と一緒に勉強会や研修会を行っている。また、外部の研修にも参加し他施設の職員との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に直接お会いし、希望や不安をよく聞き、記録しスタッフ全員と情報交換をし合い対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何度も話し合いの場を設け、安心してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームを決める前にご家族や本人に必要な支援が出来る他のサービスも説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶を飲みながら昔話や生活の知恵等を聞いたり、縫い物や料理等も教わりながらコミュニケーションを図りより良い関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や買い物、旅行等、ご家族に協力していただけることはお願いし、ご本人と一緒に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた近所の知人や元同僚が訪問に来たりしている。また馴染みの美容院などにも通っている。	以前住んでいた所の近所の知り合いが訪ねてきたり、家族の協力で馴染みの美容院に通うなど、関係性の継続を支援している。家族との外泊、外食も自由である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を見ながらリビングでの席の配置を考え、入居者同士の間人間関係がうまくいくよう調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても手紙で状況を伝えあったり、状態が安定しているか訪問したり、電話相談等も対応している。転居されても気軽に来訪できる雰囲気作りをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向は普通の会話の中から引きだしたり一対一になった時に聞きとるようにしている。入居者の希望は内容によってはご家族の希望も参考にしている。	職員と利用者が一緒にお茶を飲んだり家事をする時、また、入浴時などを捉えて本人の意向を聞くように努めている。さらに家族の希望も把握し、日常の対応方法などで活かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から生活歴を聞き、ご本人からは生活の中で情報を得るようにしている。出来るだけ自宅にいた時のように過ごして頂けるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは必ず日報、申し送りノート等に目を通し、一人一人の状況を把握してからケアに入るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のフロア会議にてスタッフ全員で話し合いプランを検討、作成しご家族に確認して頂き、追加項目があれば付け足している。	毎月のフロア会議は、職員全員が参加できる夜間に開催し、できるだけ多くの職員から意見を聞いている。また、訪問診療医・歯科医・薬剤師などの意見や家族の意向も取り入れ、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録を毎日、日勤者と夜勤者が記録して情報を共有し、ケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の外出や移送先、ホームで出来る範囲で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域担当の警察、消防署と連携とり離設時や火災等に備えている。また近隣のお店等にも挨拶や利用して緊急時連絡や救助の協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関への受診を支援している。協力医療機関の診察と訪問看護は毎週交互に行われ、緊急時は24時間対応になっている。また訪問歯科も必要に応じて対応している。	入居前からの医院や専門医への受診は家族に対応を依頼しているが、初回は職員が同行して情報共有し、継続的に適切な受診が継続できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	マウントバードの看護師が毎日来てくれ健康管理又は医療機関とのパイプ役を果たしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来る限り様子を見に行き、早期退院に向け病院側と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を入居時に説明し希望を聞いている。事業所としては看取り1件。	入居時に指針を説明し、意向の聞き取りをしている。入居後は重度化や終末期など状態の変化に沿って話し合い、その都度意向を確認している。また、職員には看取りの研修会を定期的に行い、看取りに関するスキルアップを図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療連携をしている看護師に急変や事故などの対応方法については研修をしてもらい実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練は隣接している施設と合同で行っている。 非常時に備え、近隣事業所から協力が得られるように挨拶や利用を欠かさないようにしている。	通常の防災訓練の他、夜間対応の火災避難訓練も行った。災害時には近在の職員その他、近隣の商店・コンビニ・量販店・民生委員・施設オーナーなどからの支援も得られるよう、協力関係を築いている。また地震等緊急時の備蓄も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前は○○さんと呼ぶよう心掛けている。また認知症の入居者でも一人の人間として尊重して対応するよう指導している。	訪問時には、職員が利用者に穏やかな言葉かけ、対応をしていることが確認できた。プライバシーについては、入浴介助などで同性介助の希望があれば、応じることにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物を選ぶ時、食べ物を選ぶ時に選択できる機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出、散歩に行きたいと要望のある時は可能な限り要望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にはおしゃれできる様一緒に服を選んだり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ってもらったり、食事作りを手伝って頂いている。また食器洗いなどもスタッフと一緒にして頂いている。	調理の下ごしらえや味付けのチェックを依頼するなど、利用者と共に食事作りを行っている。毎月のイベント食、特別食なども利用者の希望や好みを取り入れ、食事が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事、水分量をチェックしている。摂取量が少ない時は介助したり、嗜好品などを提供して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自が歯ブラシをもってご自分で磨く様支援している。仕上げ磨きが必要な時はその都度対応している。拒否が強い時はうがいだけでもしてもらえようような声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ排泄が出来るよう排泄チェック表を使用している。また排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。	排泄チェック表で、排泄の状況や水分摂取状況などを把握し、トイレ誘導をしている。また、ポータブルトイレを利用しながら、排泄の自立につながるなど、一人ひとりについて工夫しながら排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中活発に体を動かすよう心掛けている。便秘がちな方にはサンファイバーを取り入れ、なるべく下剤を使わない支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週1回入浴の無い日を設定しているが希望があれば曜日関係なく実施している。	入浴は週3回を基本としているが、希望に応じて回数を増やすこともある。また、入浴剤を使ったり、季節に合わせて柚子、菖蒲、桜花などをに入れて楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも傾眠が強う時は無理して起こしておくことなく居室で一時間くらい休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と細かく情報共有しており服薬による入居者様の体調変化を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族に生活歴を情報収集し、趣味、嗜好品の把握に努め出来る限り日常生活に取り入れられている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望により散歩など行けるようにしている。家族の面会時、ドライブや買い物に行ってもらったり協力してもらっている。	散歩や買い物、甘い物を食べに行くなど、日常的に外出している。また、ドライブやレストランのバイキングに出かけることもある。家族にも協力してもらい外出の機会を増やすようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる入居者様には財布を持って頂いている。外出時に買い物出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様か電話したいと希望があればこちらからかけて繋いでいる。本人がダイヤルを押せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには季節感を出す装飾を飾っている。温度計、湿度計を置き快適に暮らせるようにしている。	木をふんだんに取り入れたリビングは明るく落ち着いた雰囲気がある。温度・湿度を適切に管理しており、換気にも注意して、居心地のよい空間になるようにしている。廊下にはイベント時の写真が飾られ、会話のきっかけにもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやたたみが置いてあり利用者同士でコミュニケーションが取れるよう提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具等を入居時に持ってきて頂き家庭の延長として生活してもらえるようアドバイスしている。また写真、ポスター、飾りなど制限はしていない。	居室には仏壇・タンス・ソファなど好きな家具を持ってきている。余分なものを置かない人もいれば、テレビ・書物・観葉植物など好きなものに囲まれて暮らす人もいるなど本人が居心地よく過ごせるような居室になるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故報告等において常に環境要因として安全な環境作りを検討している。		